

評価者	環境部長	石井 康則
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	環境汚染の防止
------------	----	------	-------	---------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	21.8%	平成27年度	19.3%	平成28年度	17.4%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

		お金の使い方			お金の使い方			お金の使い方		
		使いすぎ	ちょうどよい	足りない	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
仕事の効果	必要以上の効果	0.7%	0.9%	0.0%	0.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
	ちょうどよい	1.2%	56.1%	1.6%	1.4%	54.6%	1.6%	1.6%	56.5%	1.4%
	効果不十分	2.2%	2.2%	8.3%	2.6%	4.1%	9.6%	2.1%	3.7%	12.1%

  

平成26年度	平成27年度	平成28年度
--------	--------	--------

  

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>

認知度について82.6%が認知しており、経年で見れば認知度は上昇していることから継続して取組を推進し、認知度の維持向上に努めていくことが必要と考える。

お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成28年度は、56.5%であった。過去3年間を比較すると横ばい傾向にあり、評価において効果とお金の均衡は保持されているものと推測される。

しかし、表から伺える傾向として、仕事の効果が「効果不十分」、お金の使い方「足りない」がわずかに増加傾向にあることから、生活環境に対する市民ニーズを注視し、生活環境の保全に努めていく。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	20.2%	56.0%	2.0%	21.8%	100.0%
平成27年度	20.3%	53.8%	1.4%	24.5%	100.0%
平成26年度	17.8%	53.6%	2.1%	26.5%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンター周辺の環境調査を継続して行う。(環境-15)
- ②公害の発生を防止するため、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等の環境の状況を監視し、事業所等への助言・指導等や市民からの苦情対応を行い、快適な生活環境が保全されたまちを目指す。(環境-16)
- ③不快害虫等が発生するおそれがある河川、排水路等の防除、駆除及び薬剤配布や相談業務を行い、環境が良好に保たれるよう衛生活動を行う。(環境-17)
- ④害虫等の駆除体制は、いままで直営で対応してきたが、職員の退職不補充等による業務体制の見直しにより、業務の委託化や新たな駆除体制の整備を進め、継続的な衛生活動の維持に必要な体制整備を行い、良好な環境の保全に向け、取り組みの維持・継続を図っていく。(環境-17)
- ⑤生活環境の保全を図るため、公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿と浄化槽汚泥一部処理設備に対し、適正な維持修繕を実施し、安定した下水道放流を行う。(環境-30)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
環境-08	し尿収集事業	22,923	22,179	26,884	26,012	0.5	0.5	b	B
環境-15	ダイオキシン類削減対策施設整備事業	3,596	1,069	5,118	2,563	0.2	0.2	b	B
環境-16	公害等対策事業	7,201	8,112	30,094	30,954	3.0	3.0	b	B
環境-17	衛生・害虫駆除事業	10,076	9,914	29,153	21,335	2.5	1.5	b	C
環境-30	深沢クリーンセンター管理運営事業	24,643	23,811	61,841	53,508	5.0	4.0	b	B

(3) 主な実施内容

<p><b>【主な実施内容】</b></p> <p>①公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿の収集運搬により、生活環境の保全を図った。(環境-08)</p> <p>②今泉クリーンセンターについては焼却停止をしたことにより、平成28年度の環境調査は行わず、名越クリーンセンター周辺の環境調査を行った。(環境-15)</p> <p>③自動車排出ガス等環境調査、定期的な河川水質調査、二酸化窒素濃度調査などの環境調査を行った。(環境-16)</p> <p>④公害苦情への対応を行った。(環境-16)</p> <p>⑤害虫駆除について市民からの相談を受ける他、ユスリカ駆除の薬剤散布やねずみ駆除作業を行った。(環境-17)</p> <p>⑥害虫等が発生する恐れがある河川、排水経路の防除、駆除を行った。(環境-17)</p> <p>⑦スズメバチの巣の駆除について、受益者負担制度を設けて、入札により業務委託を行った。(環境-17)</p> <p>⑧し尿放流設備に対し、適正な維持修繕を実施し、安定した下水道放流ができた。(環境-30)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b></p>
--

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

<p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b></p> <p>環境汚染等の公害発生防止のため、市民からの苦情等に対して迅速に対応することができた。また、環境調査やその他の委託事業についても適切な事務の執行を行うことができた。</p> <p>害虫の駆除については、全ての市民が対象であるが、利用者は限定的であるため、事業の効率化や受益者負担について引き続き検討が必要である。</p> <p>公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿及び浄化槽汚泥の一部処理に係る施設の運転及び維持管理を行い、処理設備については、適正な維持修繕を実施し、安定した下水道放流ができた。</p> <p>公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿の収集運搬により生活環境の保全を図った。</p> <p>焼却停止をした今泉クリーンセンターを除き、引き続き、名越クリーンセンター周辺地域の大气環境調査を実施し、周辺環境に影響のないことを確認する必要がある。</p>
--

### 3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

評価結果を踏まえて引き続き、公害の発生を防止するため、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等の環境状況を把握、監視し事業所への助言・指導等や市民からの公害等苦情の対応を行い、快適な生活環境が保全されたまちを目指す。害虫等が発生するおそれがある河川、排水路等の防除、駆除及び薬剤配布や相談業務を行い、良好な環境の保全に向け継続的な衛生活動の維持に必要な体制を構築し、事業の継続を図っていく。

安定した下水道放流を目指す。

引き続き、名越クリーンセンター周辺地域の大气環境調査を実施し、周辺環境に影響のないことを確認し、快適な生活環境が保全されたまちを目指す。

### 4 平成29年度の目標

- ① 公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿の収集運搬により生活環境の保全を図る。
- ② 名越クリーンセンター周辺の環境調査を継続して行う。
- ③ 引き続き、公害の発生を防止するため、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等の環境状況を把握、監視し事業所への助言・指導等や市民からの公害等苦情の対応を行い、快適な生活環境が保全されたまちを目指す。
- ④ 害虫等が発生するおそれがある河川、排水路等の防除、駆除及び薬剤配布や相談業務を行い、衛生の維持に必要な体制を整備し、良好な環境の保全に向けた取組を推進する。
- ⑤ 生活環境の保全を図るため、公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿と浄化槽汚泥一部処理設備に対し、適正な維持修繕を実施し、安定した下水道放流を行う。

### 5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	環境-16	事業名	公害等対策事業						備考	
指標の内容	公害苦情処理率					単位	%	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
公害苦情に対して早期の解決を目指すため。	目標値	100	100	100	100.0					
	実績値	24/40(件)	20/40(件)	44/56(件)						
	達成率	60.0%	50.0%	78.6%						
整理番号	環境-17	事業名	衛生・害虫駆除事業						備考	
指標の内容	スズメバチの巣の駆除について相談を受け、駆除した件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
スズメバチの巣の駆除に対して早期対応を目指すため	目標値	800	800	600	600.0					
	実績値	1,011	403	359						
	達成率	126.4%	50.4%	59.8%						
整理番号	環境-30	事業名	深沢クリーンセンター管理運営事業						備考	
指標の内容	特別管理産業廃棄物保管基準の遵守					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
生活環境の保全を図るため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	100.0	100.0	100.0						
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%						

整理番号	環境-15	事業名	ダイオキシン類削減対策施設整備事業							
指標の内容	環境基準に適合					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
周辺環境へ影響を及ぼすことがないように焼却施設の運転管理を行っていることを、確認する必要があるため。	目標値	100.0	100.0	100.0						
	実績値	100.0	100.0	100.0						
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%						

**参考 前年度外部評価結果への対応**

**鎌倉市民評価委員会からの指摘**

**課題**

- ・環境基本法にある騒音、振動、悪臭、さらには光害、日照に関わる被害の増大を想定した取組が手薄な印象である。
- ・公害等に対する苦情が局地的・個別的にあり、苦情に対する適切な指導が求められる。
- ・稲村カ崎の下水事故の例を教訓にして、改めて対策計画を立てるとともに、発生時に計画どおり対策が行われることが求められる。
- ・職員退職による人員体制の見直しがあるところだが、取組に切れ目ができないようにしっかりと対応することが求められる。



**指摘への対応、コメント等**

- 地域環境への関心が高まる中で、日常生活における多様な公害苦情への対応が必要なのは十分認識しており、他自治体の動向を注視しつつ検討に努める。
- 市民からの苦情申立て内容やその心情を十分理解し、事業者等の発生源者への確かな指導に努める。
- 水質事故等の発生について庁内連携し、初動体制やその後の対策について適切な処置ができるよう努める。
- 市民ニーズと市が取り組むべき業務のあり方を検討しつつ、より効率的な業務の推進を図る。

**提言**

- ・公害苦情の対応は個人差が出るため、対応に神経を使う非常に難しいものだと考えられるが、助けを求めている市民に真摯に向き合える鎌倉市であり続けて欲しい。また、公害苦情処理が早期解決できるように苦情件数、駆除件数も明らかにすべきである。
- ・苦情解決ができなかった部分の40%の内容が気に入り、必要とされている対応については、100%処理ができるように目指してほしい。
- ・駆除体制については、業務体制の見直しにより、業務の委託化や新たな駆除体制の整備を進めるなど、継続的な衛生活動の維持に必要な体制整備を行うべきである。
- ・駆除体制については、業務体制の見直しにより、業務の委託化や新たな駆除体制の整備を進めるなど、継続的な衛生活動の維持に必要な体制整備を行うべきである。
- ・「家屋内不快害虫等の駆除」の受益者負担の検討を進めるべきである。
- ・鎌倉市の大気汚染や騒音の最大の要因の一つに車からの廃棄ガスがあげられることから、その抑制に向け、「都市交通」などの分野と連携し、取組を行っていただきたい。また騒音については外国人観光客や海水浴客の声などの要因があるが、それらについては「観光」分野と連携して、対策事業を行っていただきたい。
- ・指標として、大気や水中の成分濃度や定点における騒音レベルなどを設定すべきである。
- ・恵まれているまちであるが更なる環境維持、環境汚染防止に期待する。



**提言に関するコメント等(総論)**

- 公害苦情と処理状況は、環境調査データ集として冊子やホームページで発生日、公害内容、用途地域、発生源の別に毎年度公表している。
- 公害苦情については、迅速かつ適切な対応により早期解決を目指しているところであるが、その対策に費用がかかり発生源者に大きな負担となる場合や発生源者と苦情者の立場や心情に大きな差異が生じていて、双方の理解の一致に時間がかかるなど解決に時間を要する案件がある。そのような案件については、双方の意見の折り合う接点を探すべく時間をかけ根気強い対応に努めている。
- 地域環境の指標となる大気、水質他の定点調査を毎年実施しており、比較すべき基準と比較しその動向や市域の環境状況の把握に努めている。
- 都市の公害問題と都市交通の相関を認めつつ、その対策に苦慮してきたところである。今後さらに増加が見込まれる外国観光客等の対応について関係課と連携し多様な施策を実施し市域環境の改善や新たな公害苦情への対応に取り組んでいく。
- 害虫駆除等市域の衛生的な環境の維持については、市民ニーズや市としての公益性について他自治体や社会的背景を思慮しつつ検討していく。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・苦情申し出者と発生源者との調整に努力している。
- ・環境汚染等の公害発生防止のため、市民からの苦情等に対して、迅速に対応し、環境保全に努力している。
- ・郊外苦情処理率が上がっているのは、評価できる。またその他の取組に関しても、肅々と取り組んでほしい。
- ・公共下水道に接続していない、全ての汲み取りし尿の収集運搬や、し尿放流設備に対して適正な維持修繕を実施し、生活環境の保全を図った。
- ・環境調査やその他の委託事業についても適切な成果・執行を行うことができた。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	0	→		7
効果	○	2	△	0	—	6	—

### 《課題》

- ・し尿処理事業は終わりが設定されていない事業のままで良いのか。これこそ不公平感のある事業になっていないか。
- ・「害虫等の駆除体制の見直し」は直営か否かだけでなく、行政が関わる範囲と市民が自費駆除する範囲を明快に区分するとともに、継続的な衛生活動の維持に必要な体制整備を行う必要性がある。スズメバチは行政が必ず駆除すべきなのか。
- ・全世帯が公共下水道に接続できる可能性はあるのか。取組の問題なのか。この施策の大きなウエイトを占めている。
- ・国道における暴走族が気になってきている。
- ・良好な環境の保全に向け、取組不快害虫等が発生するおそれがある河川、排水路等の消毒、駆除及び薬剤配布や相談業務を行い、良好な環境の保全に向け、継続的な衛生活動の維持に必要な体制を構築し、事業の継続を図っていく必要がある。
- ・今後も、引き続き行う取組であるため、効率性と安全性に重点をおいて取組を進めて行ってほしい。

### 《提言》

- ・公害処理の中に騒音公害が含まれているとしたら、関連部署と調整して早急に対応してほしい。
- ・公害苦情処理率の目標値は件数なのか処理率なのかかわからないことなど、指標の設置方法の再検討をお願いしたい。（例えば平成28年度の公害苦情処理の8割が解決したのを受け、来年度は100%解決しようと計画を立てているのだとすれば評価したい。基準の遵守が100%だったことを評価してほしいと言われても当たり前の数値と判断するので評価できない。）
- ・し尿収集事業に毎年2,000万円超を支出しているが、「一気に全戸下水道接続する手立て」を検討されたい。
- ・環境調査は今後も継続してほしい。
- ・し尿収集は下水道を整備した家庭から見ると、不公平感がある。またコスト面でも全ての経費を回収できている訳ではないため、長期的な計画により、「全ての家庭に浄化槽を設置する」または「水洗化する」べきである。
- ・スズメバチの巣の処理代金は市に依頼すると民間業者に比して非常に安い。もう少し実費に近い費用を設定すべきである。

### 《質問》

- ・指標「公害処理率」の目標値は何故100%ではないのか。
- ・スズメバチの駆除件数と相談件数との差異は何件か。その差異が「自費駆除件数」と理解して良いか。